

## 第6回日本白鳥の会総会 結果報告

1. 日 時 昭和53年10月1日(日) 午前9時30分～午後4時
2. 場 所 東京都港区虎ノ門 「虎ノ門共済会館」
3. 出席者 家田会長 以下 21名 来賓 2名
4. 議事次第

(1) 家田会長あいさつ

要旨(日本白鳥の会結成時の目的のひとつである IWRB の加盟と国際白鳥会議の見とおしも立ったので、一たんこの組織を解体して新しい方法での出発を提案したが、昨晚以来の理事の皆さんの熱意、また会報第5号に見る会員諸賢の真摯な研究活動等を拝見して存続の意義を感じた。このうえは任期一ぱい努力していきたい。)

(2) 来賓祝辞

A 環境庁鳥獣保護課長補佐 運見重義氏

要旨(皆さんの熱意に敬服している。昭和54年度の予算要求書に IWRB の負担金ならびに IWRB 代表者会議受け入れに関する予算を計上した。また今度の国会には国際湿地保護条約の批准承認を求めるため鋭意努力中である。)

B 山階鳥類研究所標識研究室長 吉井正氏

要旨(ハクチョウの標識調査では日頃の各位のご努力に敬意を表する。ソ連に標識鳥のデータを送ったところモスクワのキシンスキー博士から返事がきた。文面には日本における標識ハクチョウの卓越した観察態勢と観察者の優秀さをほめたたえていた。

標識首輪は材質の関係でアメリカからとりよせるよう努力している。最近のアメリカからの情報では、カナダガンにも標識をつけているので、よろしくとってきている。)

(3) 議長選出

松井 繁氏を選出

(4) 報告結果

本田事務局長と松井副会長が下記(会報第5号に一部掲載)について報告した。

- A IWRB マッシューズ局長の来日と IWRB 日本委員会の結成について
- B IWRB 日本委員会理事会結果について
- C 前シーズン定時定点調査結果について
- D 猪苗代湖研修会について
- E 白鳥の会イギリス研修旅行について
- F ピーター・スコット博士の来日について

(5) 審議事項

- A 昭和52年度事業と決算について
- B 昭和53年度事業と結算について

以上については別掲のとおり承認された。

C IWRB 代表者会議(1980年2月開催)に付随する国際白鳥会議協賛について別紙(A)のように進行中なので、開催の場合は IWRB 日委員会の方針にもとずいて参画する。

D 会報「日本の白鳥」の英文化について

会報第6号を例年どおり発行するとともに、別に国際会議資料として用いるため英文資料編集委員会(阿部学理事ほか)を構成し、会員の研究文を英文化する。英文化費用は論文作者の共同出費とする。

E 「日本白鳥の会」の英文名称について

THE SWAN SOCIETY OF JAPAN とする。

F バッジ、ワッペン等の作成について

以上については作成委員会(大森理事ほか)で企画作成し販布する。会員はそれぞれ2個以上購入のこと。

G 定時定点調査の改善策について

調査日を厳守すること。調査日にハクチョウが見られない場合でも、調査表には調査者氏名を記し総数欄に数字の0を記入して報告すること。

H 調査結果速報について

各会員からシーズン中4回の調査表提出を求める。集まった調査表はその都度ただちに玉田理事に送付し統計作業をしてもらいその結果を会員に回報してもらう。

I 第4回白鳥研修会について

多数の希望により「瓢湖」を中心会場として2月24日(土)・25(日)日開催することになった。テーマは「定時定点調査の充実について」

## 5. 研究発表と質疑

- (1) 三上士郎氏がコハクチョウの嘴峰Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ型についての研究成果を発表した。
- (2) 金沢裕司氏がクッチャロ湖の川村勇蔵氏の撮影したオオハクの交尾の写真について説明した。
- (3) 古川博氏が6カ所村、小川原湖等の標識鳥について追加説明した。また2羽の残留鳥があった。
- (4) 大森常三郎氏が斃死鳥の体内にあった散弾をしらべると日本で使用されているものではないようであった。
- (5) 畠山正光氏はオオハク(成)が白から灰色になることのある例を発表。
- (6) 上竹二郎氏013C が渡来したことを報告。
- (7) 吉川吉枝氏が、四国・九州に飛来した白鳥の情報をもたらされたが会報に載せたいと了承された。
- (8) 門脇益市氏は中海のハクチョウには1日平均1羽に対し400gのエサを与えている。カモメやカモ類も食うのでハクチョウ1羽は平均200g程度しか摂取していないものと思う。中海はほかの自然餌も豊富なのでエサ公害は考えられないと発表。

以上

## 昭和 52 年度日本白鳥の会決算書

( 歳 入 )

費 目	予 算 額	収 入 額	増 減	備 考
会 費	120,000 円	132,000 円	12,000 円	2,000 × 66 名
過 年 度 会 費	10,000	4,000	△ 6,000	
総 会 参 加 費	80,000	84,000	4,000	
事 業 収 入	50,000	29,500	△ 20,500	会報売り上げ 42 冊分
寄 付 金	20,000	100,000	80,000	家田氏 松井氏
雑 収 入	7,000	740	△ 6,260	
繰 越 金	23,705	23,705	0	
計	310,705	373,945	63,240	

( 歳 出 )

費 目	予 算 額	収 入 額	増 減	備 考
印 刷 費	170,000 円	205,000 円	△ 35,000 円	
総 会 費	80,000	61,140	18,860	
通 信 費	50,000	49,980	20	
消 耗 品 費	10,000	5,810	4,190	
負 担 金	0	50,000	△ 50,000	IWRB 日本委員会負担金
予 備 費	705	0	705	
計	310,705	371,930	△ 61,225	

収入額 373,945 円－支出額 371,930 円＝2,015 円

( 53 年度会計へ繰越し )

## 昭和 53 年度日本白鳥の会予算書

( 歳 入 )

費 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
会 費	140,000円	120,000円	20,000円	2,000×70人
過年度会費	30,000	10,000	20,000	
総会参加費	100,000	80,000	20,000	5,000×20人
事業収入	60,000	50,000	10,000	1,000×60人
寄付金	50,000	20,000	30,000	
雑収入	5,000	7,000	2,000	
繰越金	2,015	23,705	21,690	
計	387,015	210,705	76,310	

( 歳 出 )

費 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
印刷費	220,000円	170,000円	50,000円	
総会費	80,000	80,000	0	
通信費	50,000	50,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	
負担金	0	0	0	
予備費	27,015	705	26,310	
計	387,015	310,705	76,310	